

## 平成30年度学校評価について

平成30年度学校評価に係るアンケートにご協力いただきありがとうございました。  
児童生徒や保護者の皆様、学校関係者の皆様から頂きましたアンケート結果を、第3回学校運営協議会で報告いたしました。委員の皆様からいただきましたご意見を踏まえ、桃陽総合支援学校の教育活動について、分析・考察を行いました。

### 【学習について】

「タブレットPCや電子黒板を使って学習することでよくわかる」という項目では、小中学校部、前期後期ともに肯定的な意見が7割以上でした。学習空白がある児童生徒もおり、中学生になると勉強も難しくなり、なかなかついていけないこともあります。

児童生徒にとって、それぞれの学びやすい環境、そして丁寧な指導をICTの機器を活用して整えていけたらと考えております。

### 【自己肯定感について】

「自分にはよいところがある」という設問に対し、肯定的にとらえている割合が前期と比較して増えています。

入院している子供たちは今までの環境と変わり、不安な気持ちを持っています。このような子どもたちのその時その時の声を受け止めて、対応していかなければならないと感じます。

学校運営協議会委員の方からは、学校祭や研究発表会での児童生徒の活動について、自分たちで工夫し、やりきっている姿を評価していただきました。

### 【コミュニケーションについて】

挨拶に関して、中学生で前期と比較して2割ほど肯定的な意見が増えました。

児童生徒会主催で「あいさつ運動週間」を企画するなど、挨拶の意味をみんなで考えることで、児童生徒自身ももっと自分から挨拶しようという意欲の表れが、このような結果に出たと

考えます。

保護者のアンケートでは7割以上、肯定的な意見をいただいているのですが、学校関係者のアンケートの「来校したとき、児童生徒は挨拶をする」という項目では、5割ほどしか肯定的な意見をいただけませんでした。児童生徒が自分なりの挨拶方法を身に付け、誰に対しても自信持って挨拶ができるよう日々取り組んできたと思います。

### 【教職員の自己評価について】

今年度も個別の包括支援プランに基づく指導の充実に向け、取り組んできました。

教職員の自己評価としては、「あまりできていない」という意見が目立っております。

重要度は前期のアンケート結果でも高く、必要だと感じているのですが、なかなか十分に生かすことができていないという結果になりました。

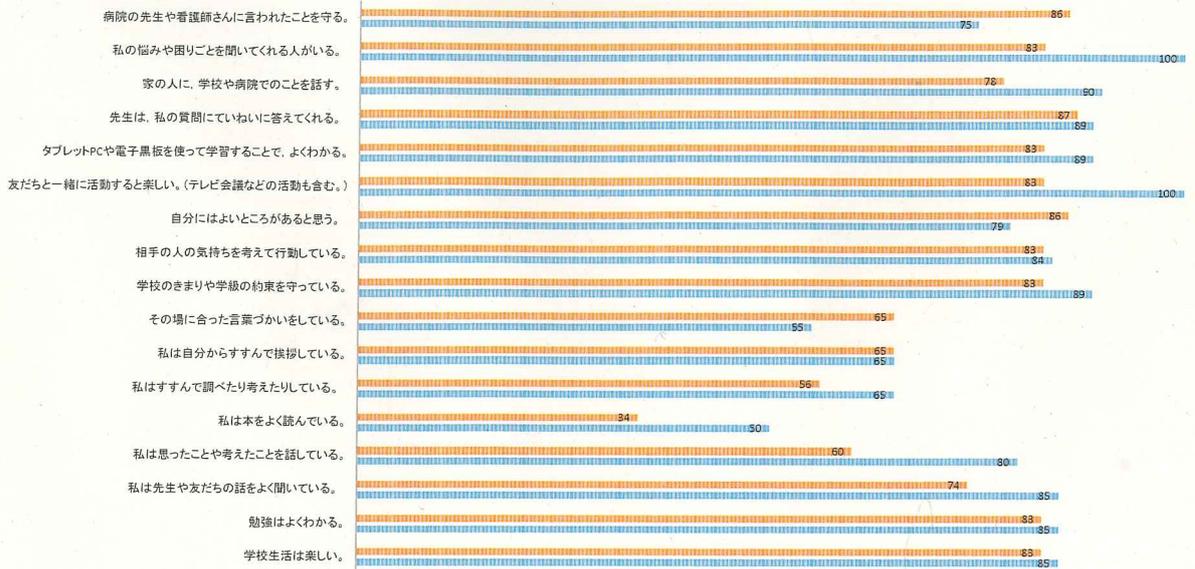
教職員の意識としては高く、必要性を感じている包括支援プランですが、桃陽特有の短期間で子供の実態を把握し、個別の包括支援プランを作成、修正、更新やその活用のありかたをもう一度見直していかなければならないと感じています。

アンケートや学校運営協議会でいただいたご意見、アドバイスを、今後も保護者、学校関係者のご協力をいただきながら学校教育活動に活かしていきたいと思っております。

以下に前・後期のアンケート結果の比較を掲載します。

### 小学部

■ 後期 ■ 前期



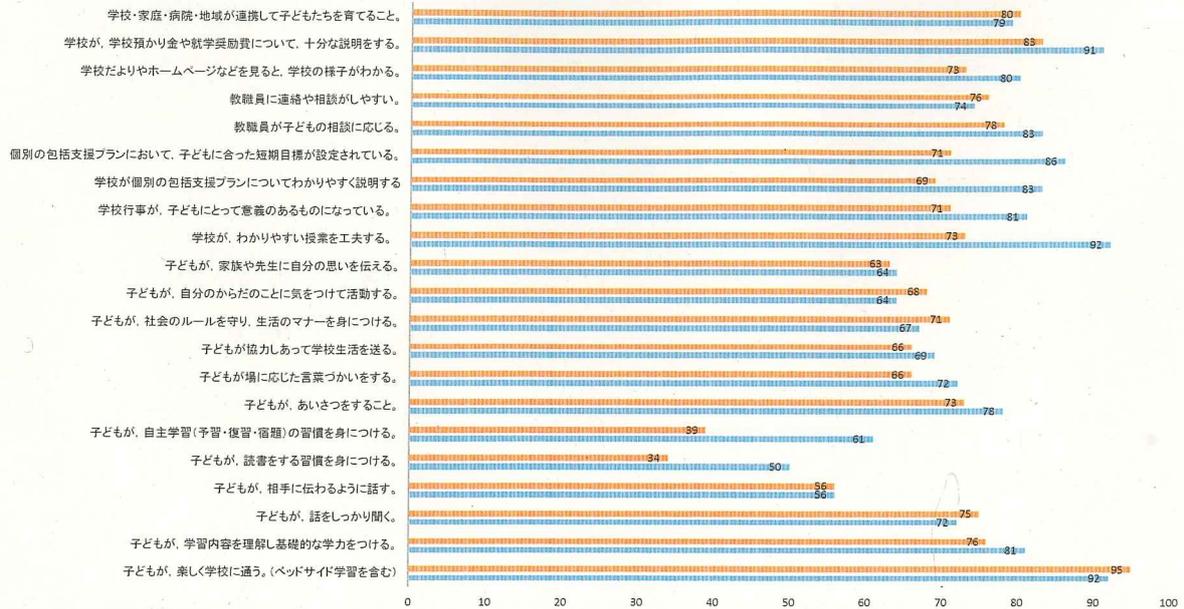
### 中学部

■ 後期 ■ 前期



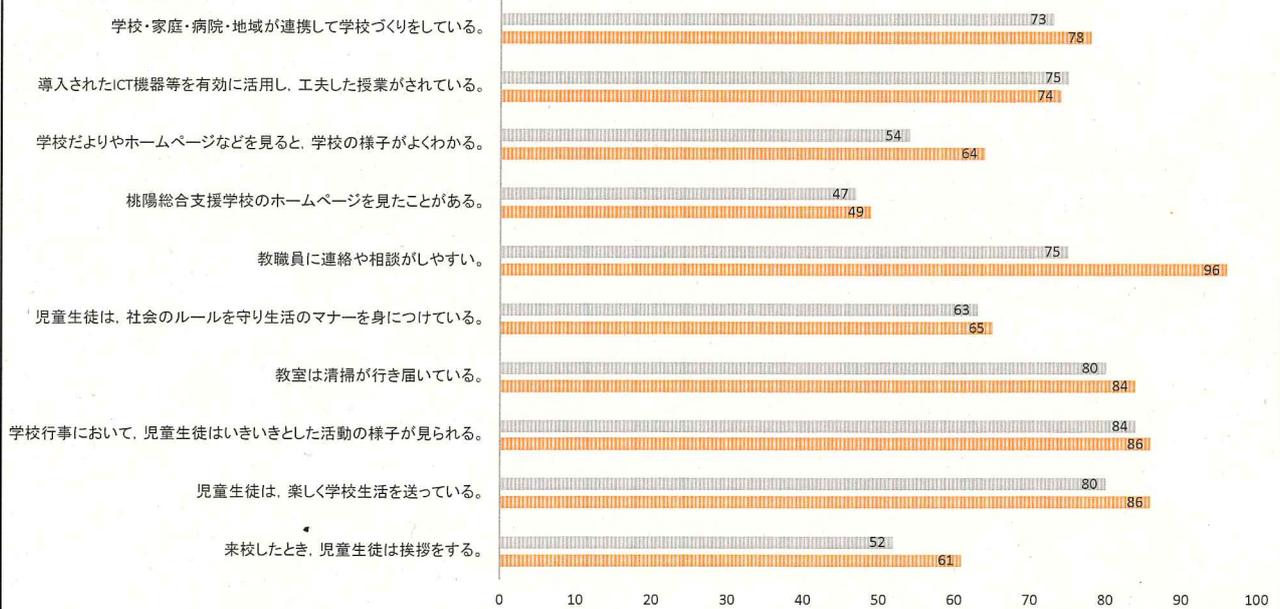
## 保護者 実現度

■ 後期 ■ 前期



## 学校関係者

■ 後期 ■ 前期



## 教職員 実現度

■ 後期 ■ 前期

